

ふるさとの民話 （第五十九話）

『実盛塚』

昔、源平合戦が行われた時、斉藤実盛（さいとうさねもり）は、加賀の地で、無残な最期をとげました。

その時、実盛の家来の中に、八田村出身の者がいて、実盛の身につけていたものを持って、八田村へ逃げ

帰りました。持ってきた遺品を塚に埋めて、実盛の霊を祀ったといわれています。埋めたものは、実盛の首であるともいわれています。

また、この塚の上に生えている木を切ると、たたりがあるといって恐れられています。

（八田町伝承 採話 守沢 政治）



→